



アイスホッケー部の歴史



アイスホッケー部の歴史

草創期（1931年～1940年）

1931年 大阪中之島のビルの屋上にスケートリンクオープン

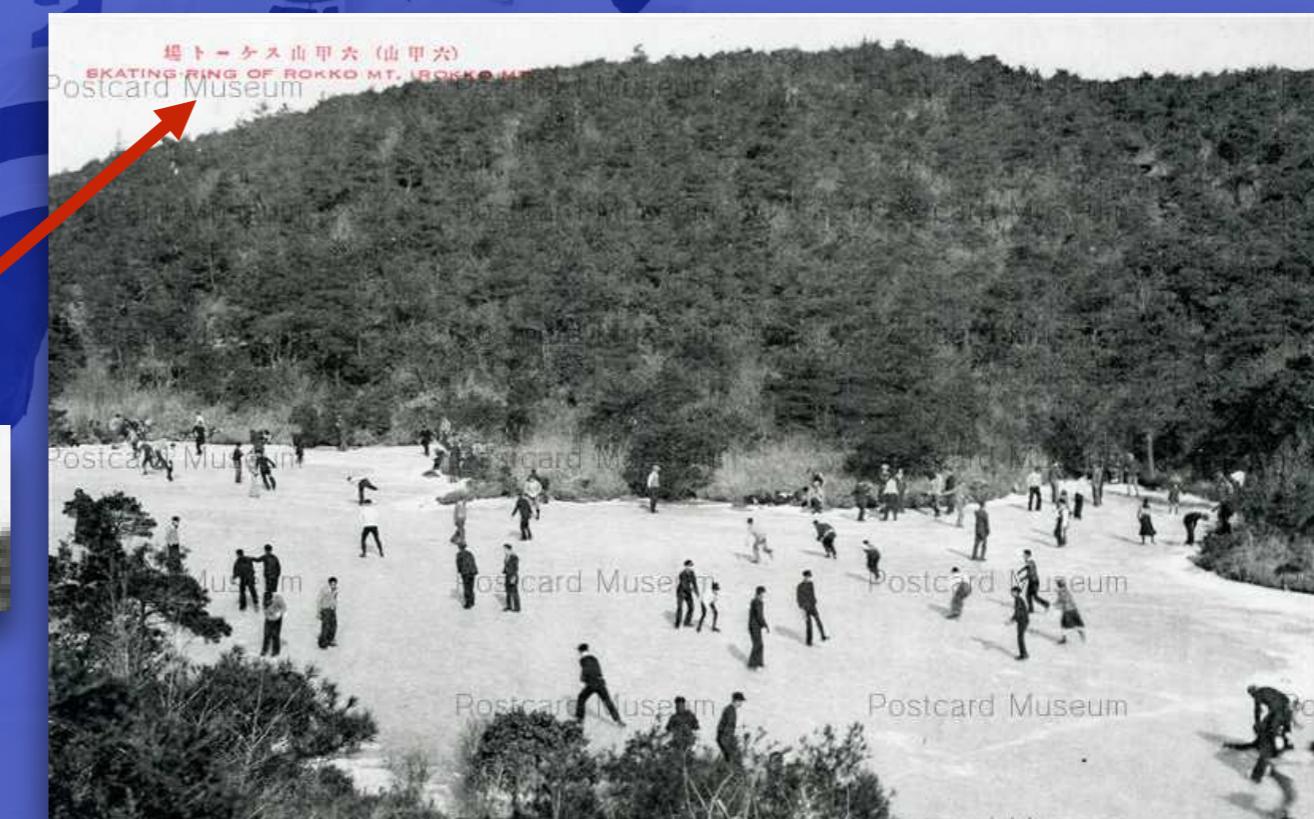
- ・それまで六甲山の天然池、冬場に限る
- ・スケート愛好学生にとって、このスケートリンクの出現は夢のよう

1932年 関西学院大学スケートクラブの誕生

- ・スケートクラブ結成申請を学院に提出
- ・当時はフィギュアスケート部門のみ

1934年 関学アイスホッケー部創部

- ・アイスホッケー部員17名となり創部
- ・当時、関西の大学アイスホッケーは
関学・京大・同志社の3大学





アイスホッケー部の歴史

当時のアイスホッケー事情

- ・アイスホッケーの道具は販売なし
- ・靴はフィギア靴、防具は剣道の防具で代用
- ・パックやスティックは東京から取り寄せ
- ・アイスホッケー向きのフェンスでなく、強いシュート練習皆無
- ・リンクを借りるにも纏まった資金が必要
- ・当時のスケートリンクは「紳士淑女の社交場」
- ・スケート愛好家の寄付で何とか工面





アイスホッケー部の歴史

戦前・戦後の混乱期（1941年～1952年）

1941年 スケートリンクの閉鎖

- ・太平洋戦争に突入し部員も勤労動員
- ・スケートリンクは軍需物資の不足
- ・軒並み閉鎖を余儀なくされた



戦後 クラブ活動の再開

- ・先輩が苦労して創部した「アイスホッケー部の伝統」を途絶えさせてはならない
- ・部員の募集や部室の確保から活動が再開



アイスホッケー部の歴史

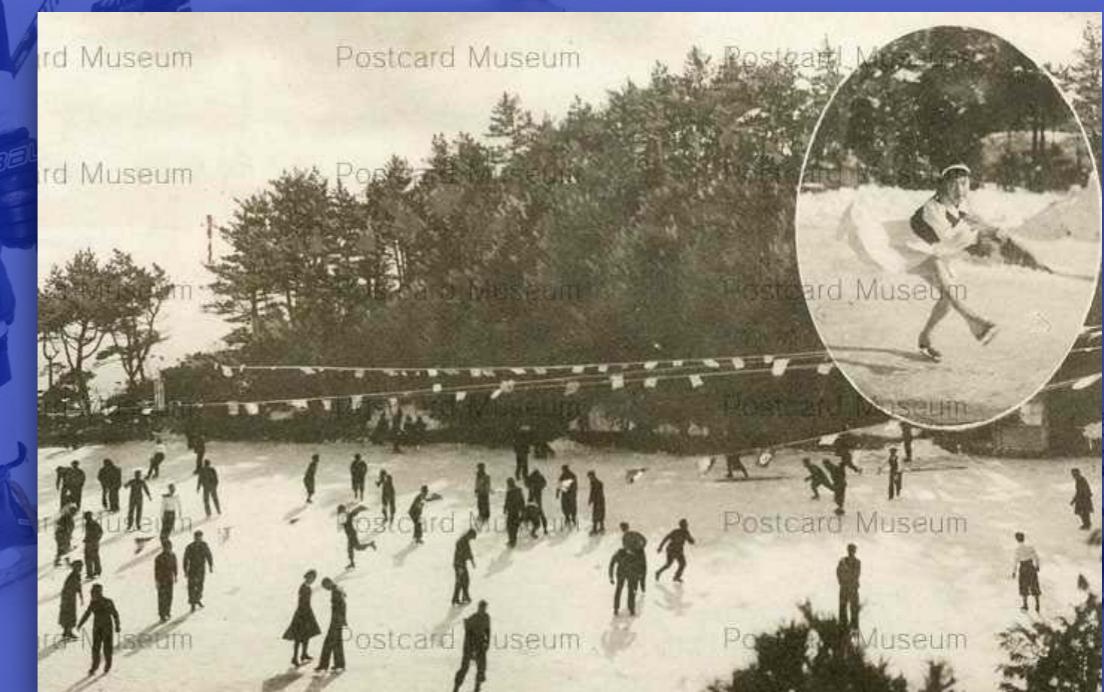
戦前・戦後の混乱期（1941年～1952年）

六甲山天然リンクで早朝スケーティング

- ・陸上トレーニングやベニア板を引いてのシュート練習が中心
- ・冬場には朝6時に阪急六甲駅に集合し、ランニングで山頂まで駆け上がり朝日が昇って氷が解けるまでスケーティング練習に励んだ

手作りの防具で練習

- ・防具は、野球のレガードを代用
- ・ゴールキーパーのステイックは近所の大工さんに頼んで製作
- ・1952年待望のスケートリンクが難波と中之島に完成
- ・昼間はスケートリンクの氷上清掃アルバイトでリンク使用料を工面
- ・リンクの営業が終了する午後9時から氷上練習に励んだ





アイスホッケー部の歴史

黄金期（1954年～1962年）

1954年 長野県松原湖冬合宿

- ・松原湖の天然リンクで早朝6時から夕方4時までの長時間練習
- ・室内リンクの練習時間は1時間30分、時間を気にせず練習に没頭
- ・高等部8名の冬合宿への参加により、一段と戦力強化

全日本インカレ3位

- ・明治大学との同率3位
- ・最近の関西大学のインカレ準優勝まで記録が破れることはなかった





アイスホッケー部の歴史

黃金期（1954年～1962年）

「打倒関東」を目指し市川辰雄氏を関学の監督に招聘

- ・市川監督（早稲田大学アイスホッケー部出身・後に古河電工監督就任）
 - ・技術面やチームの戦術面で最先端を行く指導者
 - ・その結果、関西から初めてオリンピック候補選手が関学から選出

卒業生が社会人リーグ福徳相互BKに就職

- ・日本リーグで大阪を拠点
 - ・関西インカレを5年連続して制覇した
 - 卒業生 4名が選手として就職
 - ・後に同チームの監督に2名が就任

1962年早稲田大学との定期戦

- ・関西初、早稲田大学と定期戦がスタート



私が関わった アイスホッケー部



私が関わったアイスホッケー部

現役時代（1966年～1970年）

- ・時代のキーワード（団塊世代、受験戦争、学園紛争）
- ・我々「団塊の世代」は、戦後ベビーブームに誕生
- ・受験戦争や学園紛争の「社会現象」
　　アイビールックやフォークソングの「ブーム」
- ・一方、各クラブとも旧態依然とした体質から脱却できず、部員の確保難
- ・先の見えない長期低迷時代





私が関わったアイスホッケー部

現役時代（1966年～1970年）

アイスホッケー部への入部（春の霞に誘われて）

- ・受験戦争の反動で運動部への入部を決めていた
- ・未経験者でも通用しそうという甘い考え
- ・当時、試合に最低必要な部員数
- ・スケートができない新入部員もお客様扱い

創部以来初めて二部に降格（理不尽に耐える）

- ・京都大学との入替戦終了後、黄金時代のOBから叱責
「京大に頭で負け運動でも負けるとは何事か」
- ・一部復帰まで関学のユニホームの着用は許されなかった。
- ・入部の時から「アイスホッケー部の伝統」を背負っていることを認識





私が関わったアイスホッケー部

コーチ時代（1978年～1988年）

コーチ就任後、9年ぶりに一部復帰

- ・部員20名となり一部に復帰
- ・部の存立には一定数の部員確保が必要
- ・各大学共、経験者が数名で戦力差がなし
- ・部員間競争によるチーム力向上
- ・リーグ戦の好結果に繋がるという分かり易い「良き時代」
- ・但し、関東リーグ大学選手との個人レベル実力差は歴然

キャプテン次第でチームは変わる

- ・キャプテンのリーダーシップ次第で、戦績は大きく左右





私が関わったアイスホッケー部

コーチ時代（1978年～1988年）

「アイスホッケー部員心得」作成（一部抜粋）

「アイスホッケーで青春を燃焼させよ！」

1部と2部では大違い、社会的評価が違う、卒業してから後悔しないよ
4年間アイスホッケーで完全燃焼せよ。

「伝統を重んじよ！」

辛い時、迷った時、部旗をみて同じ想いをしたOBがいることを省みよ
伝統が重荷になることもある、しかしそれは現役への期待でもある。
部員としての「プライド」を持ち、「勝利への執念」を忘れるな。

コーチ時代の卒業生に就職勧誘

- ・会社に卒業生を勧誘
- ・仕事上の交流が今日まで継続





私が関わったアイスホッケー部

O B会長時代（2001年～2011年）

- ・アイスホッケー界に激震、相次ぐ社会人チームの廃部
- ・日本リーグの名門古河電工、雪印、西武鉄道の相次ぐ廃部
- ・北海道等の強豪アイスホッケー高校の監督、生徒、父兄の目が、
関東の大学に限らず、関西の大学アイスホッケー部にも向くことに





私が関わったアイスホッケー部

OB会長時代（2001年～2011年）

アイスホッケー強豪校からの入部

- ・当初、関学は他大学に較べリkrト活動には積極的ではなかった
- ・その後、学院の理解も伴って、強豪校へのリkrト活動を本格化
- ・関学知名度の浸透により、2008年一気に強豪校から11名が入部

チーム強化に伴う新たな課題

- ・強豪高校出身者への技術指導や戦術指導のためコーチが必要
- ・日本アイスホッケー連盟指導員と専任コーチ契約を締結
- ・スケートリンクへの移動手段として部車が必要
- ・OB会に寄付追加負担をお願い
- ・一部OBは、急激なチーム強化方針や、部員の学業への取組懸念



私が関わったアイスホッケー部

アイスホッケー部の歴史を振り返り、部員が集まらず2部・3部に甘んじた卒業生にとって、今日のアイスホッケー部をだれが想像できたであろうか？

今後も多様な時代の変化に対峙し、それを乗り越え引継がれる「関学アイスホッケー部の歴史と伝統」を今後とも注視したい。

